



2017 ヒーローズカップ決勝大会遠征（2/24～2/26）報告

北海道バーバリアンズジュニア

高学年ヘッドコーチ 小関成樹

北海道バーバリアンズジュニア高学年チームは、2017年2月25日・26日に大阪府東大阪市花園ラグビー場にて開催された「第9回ヒーローズカップ決勝大会」に参加してきました。以下概要を報告します。

<大会の概要>

本大会は全国200を超えるミニラグビーチームのなかで、各地区大会を勝ち抜いた北海道BBJr.、高清水RS少年団、ブレイブルーパス府中JRC、ワセダクラブRS、世田谷区RS、鎌倉RS、横浜RS、伊賀良RS、関RS、京都西RS、大阪中央RS、吹田RS、阿倍野RS、東大阪RS、兵庫県RS、三田RCJ、春日LRC、草江YRC、大村RS、長崎RSの20チームが代表として参加してミニラグビーの頂点を決める大会です。初日は5チーム毎の4つのブロックに分かれて、総当りの4試合の予選リーグを戦い、ブロック内での順位を決めます。2日目は各ブロックの順位毎にトーナメント式の試合を行い、各順位グループの優勝チームを決めます。

BBJr. は初日のグループ抽選にて、大村RS、京都西RS、ワセダクラブRS、東大阪RSの強豪チーム揃いのBブロックに入り、初日4試合を戦いました。ブロック内4位で予選を通過して、2日目はシールド（4位グループ）優勝を目指して戦いました。

<試合結果概要>

第1試合 2/25（土）

vs 大村ラグビースクール（長崎県）12:00 KO

約5ヶ月ぶりの試合、さらには花園ラグビー場第1グラウンドの初戦ということもあり、子供達は緊張気味で試合に臨みました。しかし、試合開始直後にこそ、一気にトライを取られましたが、その後は動きも良く大村RSの速いテンポの攻撃にもよく対応していました。攻撃のテンポも良くなっていき、何度もあと一步のところまで迫りましたが、トライは奪えず0-5で後半へ折り返しました。後半も一進一退の手に汗握る展開で、両

チームとも一步も譲らない非常に見応えのある試合展開となりました。先に相手大村 RS にトライを奪われてしまい、0-10 となってから、BBJr は怒濤の攻撃を繰り返し、1 トライを奪ったものの、結局 5-10 でノーサイド。残念ながら敗戦スタートとなりました。しかし、子供達は十分に自分達が戦える力があることに自信を持ち、次戦への闘志を燃やしておりました。

第 2 試合 2/25 (土) 13:08 KO

vs 京都西ラグビースクール (京都府)

初戦から 40 分のインターバルで迎えた第 2 試合。対戦した京都 RS も初戦の大村 RS と同様に速いテンポで外に展開するチームで、非常に運動量の多い試合展開となりました。BBJr は何度となく数的有意を作られピンチを迎えましたが、必死のバッキングアップで粘り強くタックルを繰り返し、前半は一進一退で 5-5 で折り返しました。後半に入っても、両チーム一步も譲らない戦いが続きましたが、あと一步 1 トライ届かず、10-15 の敗戦となりました。あと一步、これが全国の強豪チームとの差なのだと感じましたが、子供達は残り 2 試合に向けて気持ちを切り替えていました。

交流試合 2/25 (土) 13:50 KO

BBJr・春日・府中合同 (北海道・福岡・東京) vs 吹田 RS (大阪府)

なかなか試合出場の機会がないリザーブの選手達にも、花園のグラウンドでプレーを、といった大会事務局のご配慮で実現した交流試合に BBJr から 5 年生を中心に 5 名の選手が出場しました。実力が拮抗した試合の連続で、どうしても出場のタイミングがなかった選手達には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。花園のグラウンドでプレーする機会を与えて頂き、大会事務局に深く感謝いたします。相手の吹田 RS は交流戦への出場選手達も非常にレベルが高く、公式戦に出てきても遜色ないプレーで、合同チームは防戦一方になってしまいました。しかし、出場できた選手達は各々自分のできるプレーを最大限に一生懸命にやったと思います。厳しいコンタクトプレーの練習を積んできた選手達は、強い選手達にも臆することなく勇気をもって果敢にプレーしてくれました。彼らが来年度、最高学年としてチームを引っ張って行ってくれるだろうと、心強く感じました。

第 3 試合 2/25 (土)

vs. ワセダクラブ (東京都) 14:56 KO

一昨年前の菅平でのラグビーマガジンカップで対戦したときには、0-70 と大敗して

いるチームで、選手達の成長度合いを試す格好の舞台となりました。もちろん、相手チームメンバーは一昨年前とは異なりますが、それでも記憶の中には強いチームといった意識があったと思います。BBJr は前半から積極的なバックス展開、さらにはフォワードでの縦突破の連続展開で何度となくゴールラインに迫りましたが、さすがに相手ワセダクラブもディフェンスが固く、なかなかゴールラインを超えられない一進一退の攻防が続きました。前半 5-5 と両チーム一步も譲らず折り返しました。後半に入っても緊迫した試合展開が続き、結局双方ともに譲らず 10-10 の引き分けでノーサイドとなりました。本当にあと一步でしたが、このあと一步を超えるのが実力というか経験の差かとも思いました。しかし、過去に大敗したチームを相手に 10-10 のロースコアにまで持ち込むことができるほどに、チームが成長してきていることを実感できる試合でした。

第4試合 2/25 (土)

vs. 東大阪 RS (大阪府) 16:02 KO

初日、リーグ戦の最終戦 4 試合目を迎え、選手達にこれまでの 3 試合の激闘の疲労が見えてきていました。とはいえ、相手も同じ条件！と気合いを入れ直して試合に臨みました。これまでの 3 チームは速いテンポで展開するスタイルのチームでしたが、東大阪 RS は大きなセンターの選手を中心に縦に激しく入ってくるチームで、BBJr が好きなタイプの攻撃パターンでした。両チームともに、同じようなプレースタイルで非常に激しいぶつかり合いが続きました。両チームともにディフェンスが固く、非常に緊迫した試合展開で、前半をスコアレスで終わるかと思われましたが、最後に東大阪 RS にトライを奪われてしまい、0-5 で折り返しました。選手達は、この試合展開なら後半絶対に行ける！と自信を持って後半に臨みましたが、相手チームは見事に前半とは異なるゲームプランに変更してきました。前半はセンタークラッシュ一辺倒だったのが、速いテンポで大外にまで展開するラグビーに変えてきました。これに、BBJr は対応しきれず後半早い段階で 2 トライ奪われてしまいました。その後は、相手チームの戦術にも対応して気迫のこもったタックルを繰り返して、何度となく相手ゴールラインに迫りましたが、トライを奪うことはできませんでした。最終的には 0-20 での今大会初めての完封負けとなってしまいました。前後半でガラッとゲームプランを変えられる東大阪 RS さんの選手達のラグビー理解度の高さに感心させられました。さすがに、翌日の決勝戦にまでコマを進めるだけのチームであったと思います。それに対して BBJr も試合途中で一気に離されそうになりかけたところで、踏みとどまり相手チームの展開に対応できておりました。これは、試合中に選手達が自ら考え、判断し、意思統一してプレーできた結果

と思います。負けはしましたが、選手達の成長を大いに感じられる試合でした。

<初日の結果>

戦績：0勝3敗1分（得失点差でワセダクラブを上回り、グループ4位）

選手達が懸命にタックルを繰り返した結果、失点を最小限に抑えることができたことで、最下位ではなく4位で決勝トーナメントに進みました。これは選手達にとって自信につながりました。

<大会2日目>

第5試合 シールド（4位グループ）トーナメント1回戦 2/26（日）

vs. 高清水 RS（秋田県）9:30 KO

前日の試合の疲労もあるものの、シールドトーナメント優勝を目指して意気揚々と試合に臨みました。試合開始早々にトライを奪い、良い攻撃リズムで試合を進めることができ、前半は10-0で折り返しました。後半に入ってから、相手チームの流れる選手への対応が鈍くなり、トライを奪われ始めました。BBJr.も前半に続いて攻撃を緩めることなくトライを重ねました。後半、高清水RSに猛追をされましたが、20-15と何とか逃げ切って花園での初勝利を手にすることができました。後半になって集中力が落ちてきたところで、相手にトライを許してしまう、といった良くない部分もありましたが、次の決勝戦にむけての反省として、切り替えました。

第6試合 シールド（4位グループ）トーナメント決勝戦 2/26（日）

vs. 伊賀良 RS（長野県）11:54 KO

泣いても笑っても、今年の高学年チームのメンバーでの最後の試合、さらには決勝戦ということで選手達の気持ちも高まり、集中力を高めて試合に臨みました。試合開始直後からテンポよく攻撃を続けて、立て続けにトライを奪い、一時は10-0とリードしました。しかし、伊賀良RSも粘り強く、徐々に点差を詰めてきて前半を10-10の同点で折り返しました。後半に向けて、気合を入れ直して臨んだものの、相手チームの交代したフレッシュな選手達の素早い動きを止めきれず、連続してトライを奪われてしまい逆転されてしまいました。それでも最後まで、あきらめず身体を当て続けた選手達。最終的に勝利には手が届かず、15-25のスコアでノーサイドとなりました。

選手達は皆、全力を出し切りました。出し切ったからこそその溢れる悔し涙。今回流した悔し涙を忘れずに、この選手達が今後ますます成長して行くことを願ってやみません。

<総括>

終わってみれば、初めて挑んだヒーローズカップは1勝4敗1分という戦績でした。北海道のチームも全国で互角の試合ができることを証明してくれたと思います。しかし、結果以上に今回の遠征（長い準備期間含む）を通じて、選手達が大きく成長したことが一番の収穫だったと思います。ゲームの展開、戦術、コミュニケーションの重要性、フィットネスの重要性といったことへの理解度が深まったことに加えて、最後まで諦めない強い気持ちを持つことの重要性を自分達自身で掴みとったと思います。ますますの成長が楽しみな選手達で、中学生からの一層のレベルアップが大いに期待されます。

最後に、本遠征にご尽力いただきました保護者の皆様、北海道バーバリアンズRSC、ジュニアコーチ陣、北海道ラグビー協会、ヒーローズカップ大会事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。

